



大正五年四月六日第三種郵便物認可  
大正八年二月二十七日印刷納本(毎月一回一日發行)

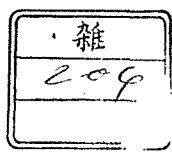
# 哲 學 研 究

第 四 卷 第 三 册  
第 三 十 六 號

大 正 八 年 三 月 一 日 發 行

機能的宗教心理學……………文學士 石神徳門	賓主未分……………文學士 久松眞一	經驗内容の種々なる連續(完結)……………文學博士 西田幾多郎	カントの歴史哲學(承前)……………米田庄太郎	將來社會觀の種々……………文學士 高田保馬	彙報……………	新著紹介……………
-----------------------	-------------------	--------------------------------	------------------------	-----------------------	---------	-----------

京 都 帝 國 大 學 文 學 大 科 內  
京 都 哲 學 會



## 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
- 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文科大學内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員（若干名）京都帝國大學文科大學哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記（一名）委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年貳圓八拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

### 書記

文學博士	波多野精一
文學博士	西田幾多郎
文學博士	朝永三十郎
文學士	千葉胤成
文學博士	狩野直喜
文學博士	米田庄太郎
文學博士	高瀬武次郎
文學士	植田壽藏
文學博士	野上俊夫
文學博士	松本文三郎
文學博士	深田康算
文學博士	藤井健治郎
文學博士	小西重直
寶殿方治	

講義の内容は「義記」に従はれた所が多く、それを比較的現代の語を以て繰過せられた観がある、到る所「若し信の下の解釋を深く味はずに、前の教理だけを以て直ちに信の對象とするならば、それは全く知解の分齋に止まつて了つて、眞の宗教的信念には遂に到達し得ないことになる」との著者の態度が現はれ、随つて本書は「大乘起信論」の研究的講義と言ふよりも、寧ろ「大乘起信」を講演せられたものだと言ふ方穩當である様に思はれ、佛教一般初學者に之によりて便宜な著述であると思ふ。

別冊講本用「兩譯對照大乘起信論」は本文のみの新舊兩譯對照であつて、「讀者は之によりて何物にも煩はされず自由に本文の意味を思索し理解し」現代的研究に依りて「新らしき意義の上に更により深き眞理の顯彰せられんことを」著者と共に私共は期待するのである。

京都法藏館發行、菊版三六四頁、定價壹圓五十錢、別冊七十三頁定價五十錢、(本田義英)

## 民本主義の教育

デューイ原著  
田制佐重解説

本書はデューイ氏の Democracy and Education を解説したものである。デューイ氏は米國第一流の學者であつて殊に其教育論は内外の思想界に重きをなして居るのであるが、今回其賜暇を利用して東京帝國大學の招聘に應じ數日の中に来朝の筈である。此時に當り先年キング氏の社會教育に關する書を日本の學界に紹介して成功せる新進思想家田制氏の筆によりてデューイ氏の近業「民本主義と教育」が我學界に邦文によりて紹介される、といふことは頗

る時宜に適應するものといふべきである。

本書は解説者の序及緒言を以て初まり原著二十六章が懇切明瞭に解説されてある。蓋しデューイ氏は其實用主義の思想に基き思考を以て統一的经验の不斷の改造不斷の再構成の方便又は機關と見做し、進化的、經驗的、殊に社會的である所に其教育思想の特色を發揮して居るのである。其所謂民本主義も解説者の序文に於て説かれてあるが如く孤立的個人主義の色彩を有せずして社會的民本主義の立場に立つて居る、氏が千八百九十六年より千九百〇三年迄シカゴの教育大學の附屬學校に於て試みたる手工教育もまさに氏の方便的、進化的、經驗的、社會的の實用主義の實踐であつたのである。教育上先驗的な理想主義的な考方は實用主義の思想や其思想の實踐によりて俄かに征服せらるべきものではないけれども殊に其社會的見地の影響に就ては悔ることが出来ないものが存するのである。吾人は氏が「社會と學校」其他の教育書に満足せずして本書に於て更らに一層徹底則ち一層組織的な思想を發表せるを喜び、此を邦文にて本邦に紹介せる田制氏の苦心と勞力に對し感謝せざるを得ないのである。東京、陸文館、定價二圓五十錢(一月廿七日小西重直)

## 寄贈雜誌

哲學雜誌、丁酉倫理講演集、心理研究、東洋哲學、六合雜誌、東亞之光、無盡燈、六條學報、早稻田文學、學校教育、國民教育、教育學術界、教育界、教育研究、中等教育、教育時論、東京教育、

奈良縣教育、静岡縣教育、近江教育、岐阜縣教育、三重教育、愛知教育、都市教育、信濃教育、佐賀縣教育、藝備教育、長崎縣教育雜誌、宮城教育、愛媛教育、山形縣教育、秋田縣教育雜誌、

# 前 號 目 次

經驗內容の種々なる連續……………	文學博士	西田幾多郎
白・灰色及び黒の兩眼視現象通論……………	文學士	黒田源次
心理學と客觀的方法（完結）……………	文學士	檜崎淺太郎
エミール・ブートル……………	文學士	勝部謙造
中島教授墓去……………	文學博士	藤井健治郎
□ 繪		
故中島教授肖像		
故ブートル教授肖像		

會 告 價 定 廣 告 註 文 規 定

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候  
 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下度候  
 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六參番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候  
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學  
 文科大學內 **京都哲學會**  
 振替口座大阪參〇六六參番

冊	數	定	價	郵	稅
一冊	冊	金貳拾五錢	金壹圓	不	受
六冊	冊(前金)	金壹圓五拾錢	金壹圓	不	受
十二冊	冊(前金)	金壹圓	金壹圓	不	受

廣告料 一頁 金拾圓 半頁 金六圓

◎會員にあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候  
 ◎本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候  
 ◎振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候  
 ◎前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候  
 ◎見本御入用の場合は金貳拾錢御送り下され度候  
 ◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

大正八年二月二十七日印刷納本  
 大正八年三月一日發行  
 第三十六號 第四卷 第三册



編輯者 京都帝國大學文科大學內 京都哲學會  
 有代表者 寶嚴方治  
 發行者 大葉久吉  
 印刷者 青柳十一郎  
 印刷所 秀英舎第一工場

發行所 東京日本橋區本石町三丁目  
 (振替口座東京二八〇番) **寶文館**

發賣元 東京市日本橋區本石町三丁目  
 大阪市東區淡路町四丁目 **寶文館**

賣捌所 (東京) 東京堂、東海堂、北隆館、  
 良明堂、上田屋 (大阪) 盛文館  
 (京都) 寶文館 (神戸) 寶文館

# 英 語 界 の 著 名

法學博士 和田垣謙三 閣  
 日本協會員 芝染太郎 著

最新刊

## THE ART OF ENGLISH CONVERSATION

本書の著者は英語國民の間に其半生を送り普通一般に使用せらるし言語習慣を熟知することには於て稀に見る所の英語通たり此人に依りて此書を公にす誠に英語學界の一大福音なり

本書は三十八章の會話及び野球通話、書翰文例、スロガン並に英文電報略文法の諸章を收め、一度之を通讀すれば、容易に此等の諸語諸法に通ず。又各頁の上部に掲げたる日常使用の俗語は、著者が實際生活に於て得たるものにして、普通の談話に最も必要なるものといふべく而も實際英米人に接觸せざる者の以て甚だ學び難しとする所のものなり。加之卷末の卓上演說例は悉く知名の士が種々の場合に於て爲したる有名の演說にして、模範とするに足るものなり。之を要するに本書著述の目的は、單に讀書に據つて英文の知識を得たる邦人に向つて、實際に活用せらるゝ英語と、又如何なる場合に如何なるエキスプレッションが使用せらるゝかを示さんとするにあり。

ボケツト形  
 美本全壹冊  
 定價金壹圓八拾錢  
 送料金八錢

寶 文 館

大坂市東區淡路町  
 (振替大坂區四番三番)

東京市本區橋本  
 (石八二番)

哲學研究 第三十六號 第四卷 大正八年(每月一回) 大正五年四月六日(第三種郵便物認可) 定價金貳拾五錢